



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-47-3981
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成24年7月

うるわし通信

一人はみんなのために
みんなは一人のために



初年度50人の会員数も現在150人となり、会員各位のおかげで桜井を元気で住みよい街にするための活動を活発に展開することが出来ています。各位の

ご尽力に感謝いたしますとともに、改めて桜井にはすぐれた人材が多いと感じております。

しかしそれぞれが個別に存在するだけではおおきな存在感にはつながりません。手を結び連携し、一人はみんなのために、みんなは一人のために行動することによって、点が線になり線が面になり輪が広がって行きます。誰かがしてくれるだろうと手をこまね

いていても社会は良くなりません。何もしないで他人を論評するだけでは何の結果も出ません。自分の出来ることをまず一つずつでも実行することがやがて世の中を変えてゆくことになると思っています。

記紀・万葉プロジェクトも始まります。どうか今年度もよろしく願いいたします。

(堀井良殷会長)



事業計画を発表する
高瀬安男事務局長



決算予算案を説明する
船谷晴夫会計



総会受付



総会会場

総会と公開イベント

6月24日（日）午後1時より市立図書館にて第3回総会を開き、続いて公開イベントの講演・ビデオ上映・座談会の記念イベントに移行しました。

講演会『万葉恋歌』

講師：井上さやか 奈良県立万葉文化館主任研究員 （敬称略）

桜井といえば必ず思い出す歌があります。

紫は灰さすものぞ海石榴市(つばいち)の八十(やそ)のちまたに逢へる子や誰
読み人知らず
たらちねの母が呼ぶ名を申さめど路ゆく人を誰と知りてか 読み人知らず

つばいちとは商業交易の場で、山の辺の道筋の辻にありました。ここは歌垣と称して、歌のやりとりによって求婚する場でもあったのです。男性が「実名を教えてください」と歌いかけ、女性は「私の母が私を呼ぶその名であなたは呼びかけていますが、私は通りがかりのあなたを誰だか存じません」とやんわり拒絶。お互いに名を明かすことが求愛の成立になるのです。

相思はぬ人を思ふは大寺の餓鬼の後方(しりへ)に額(ぬか)づくごとし
笠郎女(かさのいらつめ)

「私はこんなにあなたを思っているのに、あなたは思いを返してくれない」と恋の怨みを歌っています。当時は男性が女性に通う「通い婚」という習俗で、男性に通ってもらいたい一心を歌っています。失恋・叶わぬ恋は中国文学の影響もあり、文学のテーマとして好まれるものでした。

降る雪はあはにな降りそ吉隠の猪養(ゐかい)の岡の寒からまくに
穂積皇子(ほづみのみこ)

かつての恋人である但馬皇女(たじまのひめみこ)の死後、お墓の在所、吉隠猪養の岡あたりに降り積もる雪を見て、彼女へ寄せる変わらぬ深い愛情を伝える名歌です。

等々、万葉歌の中より11首を選んで解説されました。会場には井上講師の講演を楽しみに来場された人も多く、市内の金屋の海石榴市の風習。吉隠の歌など始めて知った人もいて、感銘を与えられたようです。また声がとても聞きやすかったと大変好評でした。



現地レポート『古代を今に伝える～太安万侶第51代』

出演 多 忠記(おおの ただのり) 多神社宮司

多忠記氏には生出演して頂く予定でしたが、神社の催事と重なり、やむなく堀井良殷会長の収録・編集によるビデオ出演となりました。

参加者からは、太安万侶から51代の子孫が現存されていることの驚き、適確なレポート、機会があれば51代多氏にお会いしたい、などの声がありました。



座談会『記紀万葉プロジェクト～桜井市の取り組み』（敬称略）

永井 聡 県地域振興部長観光局ならの魅力創造課・課長補佐

井上 孝良 うるわしの桜井をつくる会・常任理事

田中 純 さくらんぼ倶楽部・代表

栄嶋 まゆみ 森とふれあう市民の会・会長（コーディネーター）

県の永井氏より今年から10年間にわたって行われる「記紀万葉プロジェクト」の基本的な説明がありました。地元からの3氏はそれぞれ桜井としての新たな構想の必要性や、現在進行形の取り組みについて具体的な話が披露されました。



第3回『うるわしの桜井をつくる会』総会

平成23年度決算・平成24年度予算案が可決されました。常任理事は任期満了となり新に25氏が選任され、会長：堀井 良殷・副会長：卜部 能尚・鈴木 寛治が再任されました。（敬称略）

堀井 良殷	卜部 能尚	鈴木 寛治	浅川 肇	井上 孝良	浦田 文乃	栄嶋 まゆみ
大倉 孝之	小野田 和子	金子 久熙子	河村 喜太郎	佐藤 高静	芝 房治	島岡 将
高瀬 安男	中尾 七隆	林 勤	林 三起子	東 俊克	船谷 晴夫	丸子 孝仁
室原 慶和	山本 太治	吉田 忠雄	和田 恵治			

退任された前理事には任期中のご尽力に感謝申し上げますとともに、今後何かとお力添下さいますよう、私ども一同よりお願いいたします。

まちのニュース

7月7日に第10回七夕まつりが本町通り1・2丁目商店街で行われました。今年は来迎寺で麟角舎（りんかくしゃ）の初瀬太鼓や読未知（よみち）の会の福島千佳さんたちが、コワイ話を聞かせる催しもあり、当日の人出は1000名に達し、ピーク時の本町通りは歩くこともままならない人だかりで近年にない賑わいでした。関係者みなさんのご努力に頭が下がります。



事務局だより

- 「うるわし講座 桜井の古代を探る」開催のお知らせ
7月20日（金）午後1時30分よりエルト桜井第1研修室にて開きます。
講演 古事記解説
講師 浅川 肇：うるわしの桜井をつくる会常任理事（会員無料 会員以外の方¥100）
- 7月の常任理事会は7月21日（土）午後1時30分よりエルト桜井第6研修室にて開きます。

特命オンブズマン

たじろぐことなく「一利を興（おこ）せ」

「一利ヲ興スハ一害ヲ除クニシカズ。一事ヲ生（フ）ヤスハ一害ヲ減ラスニシカズ」これは成吉思汗（ジンギスカン）に重用された中国史記つての名宰相、那律楚材（ヤリツソザイ）の言である。功名にはやって一利を興すより、一害を除く方が効果がある。という意味で、政治を司る者の格言とされた。

しかし私は名宰相の言に反し、桜井市長には「一利を興せ」と進言したい。桜井市が果たさねばならない振興諸政策の中で、優先順位の第一は観光立市である。

折しも「纏向学研究センター」を立ち上げた。一日も早く桜井市こそが邪馬台国・卑弥呼女王統治の地であることを、天下に周知すべきである。邪馬台国は、中国と国交を結んだ日本最古の国であり、歴史的価値は日本史のみなら

ず、中国史にも及ぶ世界的価値がある。

時に考古学の碩学（セキガク）、寺沢薫先生（元県立橿原考古学研究所調査研究部長）を所長に迎えた。その碩学に応え、知恵と予算をケチルことなく、邪馬台国論争に終止を打ち、桜井市こそ日本創始の国家成立の地とすべきである。桜井市振興万里の道は、この「一利」から展（ヒ）うける。

-芝 房治-



会員募集中 どなたでも（市外の方も）入会できます。くわしくは事務局まで。
年会費 個人 ¥2,000 法人 ¥20,000

編集後記 今年の総会後のイベントは「記紀万葉」がテーマでした。記紀万葉は必ずしも歴史的事実ばかりではありません。この取り組みは大別して学究的な歴史・文学・神話の追及と、興味ある部分的断片を「まちおこし」や「観光」に直結させる、の二途があると思います。

どちらを採るかは各人の自由ですが、桜井はその両面を持ち合わせている土地柄であることを改めて思っています。（あさ）

うるわし通信編集責任者
〒633-0091

桜井市桜井142-5-203

浅川 肇

TEL090-1961-6345